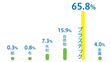
神宿る島にもごみ襲来
深刻さ増す海の環境問題

街で捨てられたごみが海へ

海ごみとは、海岸に打ち上げられた「漂着ごみ」、海面や海中を漂う「漂流ごみ」、そして海底に残ったり海底にごみの堆積を指します。この海洋ごみはいったいどこから来るのでしょうか。実は中の7～8割は私たちが暮らす街からです。街で捨てられたごみが雨や川に流れ込み、やがて海へたどりつき新たなごみとなります。

では、この海洋ごみの中で最も多いごみの種類は何でしょうか。それは、プラスチックです。約5割



海洋ごみ種類別の割合（個数）　出典：環境省「海洋ごみ対策の推進」（令和6年3月）を基に作成

海洋ごみの中には、微細な中間生成物であるものもあるという。

や食品の容器・包装袋など、プラスチック製のもの。一度使えばすぐに捨ててしまう、いわゆる使い捨てプラスチックのごみが圧倒的に多いのです。環境省の調査によると海洋ごみの約8割以上をプラスチックごみが占めるとされています。

海洋ごみの平分以上を占めるプラスチックのうち、その約4割の有用工業量産燃料が使え、中には400年以上海の中を漂うものもあるといいます。もんな年間クジラプラスチックごみは、毎年約8000万～プラスチックごみが海に流出していると推算されました。

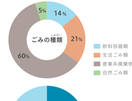
※世界経済フォーラム年次総会（2016年）

海洋ごみが引き起こす問題とは

では、この海洋ごみの何が問題なのでしょうか。一つは、海の生物たちへの影響が考えられます。例えば、プラスチック容器を間違えて食べてしまったり、誤飲に結ぶったりして傷つき、死んでしまうことも日常的に起きています。このままでは2050年の海は、魚よりもこの量が多くなると言われるほど問題は深刻化しています。また、漂着ごみが海岸の景観に悪いことは明らかに流れ着いていることも問題です。世界交化連盟・ユネスコ遺産にもごみは例し巻せています。交代で魚を守る世界文化の神聖が苦労して回収しているそうです。

近年は、プラスチック製品の紫外線による劣化や波の作用などで細分化され、5ミリ以下のかけらとなったマイクロプラスチックの影響も懸念されています。

世界遺産の海岸には大量の漂着ごみが打ち上がっている



出典：一般社団法人シーソンズ「2018」を参考に作成（世界経済フォーラム年次総会）

マイクロプラスチックがサンゴに取り込まれ、その動植物サンゴに対生現象にある細胞膜が剥れ、サンゴの白い骨格が露出で見える白化現象が引き起こされることも報告されています。

このまま海洋ごみが増え続けると、海の生態系のバランスを崩してしまう可能性があります。まだ最化していない問題もこれから表れるかもしれません。私たちにできることは何でしょうか。生活で出ることを減らすことができるかもしれません。使い捨てプラスチックに頼らず、マイバッグやマイボトルなど繰り返し使えるものを持ち歩くこともその一つです。地域のボランティア団体などは海岸清掃を定期的に行っています。清掃に参加して自分たちの街や海をきれいにすることもできるはずです。自分たちにできることを考えながら、私たちの海を守っていきましょう。

海の恵み、海の課題、海の歴史を体験

Time Schedule
- 9:00～「宗像の家」集合
- 9:10～ 開会式
- 9:40～ 身ぎよき体験
- 12:00～ 昼食
- 13:00～ ビーチクリーンがイダンス
- 13:30～ ビーチクリーン
- 14:30～ アクセサリーづくり
- 15:25～ 世界遺産セミナー
- 16:15～ 閉会式
- 16:30～ 退所

ごみを利用！オリジナルキーホルダー作りに挑戦

宗像市は、研究室に加えて、海の生態系を学ぶ「海と日本プロジェクト」の拠点でもあります。ボランティアの方々と共に海の環境を考えるプログラムを行っています。今回は、海の生態系のバランスを崩してしまう可能性があります。まだ最化していない問題もこれから表れるかもしれません。私たちにできることは何でしょうか。生活で出ることを減らすことができるかもしれません。使い捨てプラスチックに頼らず、マイバッグやマイボトルなど繰り返し使えるものを持ち歩くこともその一つです。地域のボランティア団体などは海岸清掃を定期的に行っています。清掃に参加して自分たちの街や海をきれいにすることもできるはずです。自分たちにできることを考えながら、私たちの海を守っていきましょう。

海の恵みをいただきます

宗像市は、海の恵みを身近に感じることのできる地域です。今回は、ボランティアの方々と共に、海の恵みを感じる「身ぎよき」体験に挑戦しました。まずは、海の恵みを感謝する気持ちを表すために、「身ぎよき」の意味を教わりました。「身ぎよき」とは、「身を清め、心を清める」という意味です。「身ぎよき」の意味を教わった後、参加者は、海の恵みを感謝しながら、海の生物を食べる真似をしました。

生きたアジを観察中。観察にうちこんだ様子を取り組む参加者たち

ゴミを使って作る楽しくきょうぎする海洋ごみプラスチックごみ

マイクロプラスチックごみを使った組み合わせ作業に集中し、で取り組みました。

ビーチクリーン活動の後は、拾ってきたマイクロプラスチックごみでアクセサリー作り。海岸に流れ着いたごみはどんな姿に生まれ変わるのか、子どもたちはそれぞれの感性で作品に取り組みました。そしてプログラムの最後は世界遺産セミナー。学ぶ場の存在を守る活動ついて講演の決まりについて、子どもたち自身が考えるワークショップ形式で行われました。

海洋ごみ問題

午後からは、海の問題について、ボランティアのオイガンスステーションズの梅田さんから、マイクロプラスチックごみは海洋にたくさんあると、と説明がありました。「海の問題は、海の生態系を守ることが、人間の生活を守ることにもつながる。海を守ることは、人間を守ることにもつながる。

「探究」で自分と社会のつながりを楽しく考えよう！

地域の課題を自ら発掘！

むなかた SDGs探究

海をうろうろなかた実行委員会は、地域の課題を自ら発掘し課題解決に取り組む探究学習プログラム「むなかたSDGs探究」を宗像市の中学校で実施しています。生徒たちは海の問題や地域課題について学び、どのような取り組みで自分たちの地域をよりよくしていけるのかを考え、実現を目指しました。生徒たちの学習の歩みを紹介します。このプログラムは、豊かで美しい海を次世代に引き継ぐための活動で、海をきっかけに人と人とがつながる日本財団「海と日本プロジェクト」の一環です。

参画学校と各テーマ

中央中学校―「**難民**」
河東中学校―「**キャリア**」
自由ヶ丘中学校―「**食**」

むなかたSDGs探究とは

現代社会は、変化が激しく、これからの未来をさまざまな者たちと、予測が難しい問題に向き合い、課題を解決していかなければなりません。文部科学省は、問題解決能力を育む教育方法を用いた、PBL（Project Based Learning=課題解決型学習）に重点を置くよう教育現場を要請しています。宗像市の約60％が山林や農地、海に囲まれ、豊かな自然と共存する海洋環境は、地域社会の生活と経済活動において重要な役割を果たしています。しかし、漁業資源の減少や海洋ごみの増加、観光と環境保全のバランスの重性など、多くの課題に直面しています。本プログラムは、次世代を担う中学生がこれらの課題を学び、持続的な解決策を模索することを目的としています。

step 1 講義を受ける

東北被災地を訪問する講師の方々から、がれきを目撃した

正解のない課題に取り組む

2024年4月、宗像市の中央小学校、河東中学校、自由ヶ丘中学校がプログラムに参加し、地域の課題について学びました。

講師の方々から、地域の課題に関する話を聞きました。予防可能な自然災害である東北大震災の被災地を訪問した際、がれきを目撃した。がれきは、人の命を奪ったり、地域の人々の生活を脅かしたりする存在であり、地域の課題として考えるべきだと思った。また、海洋ごみ問題について、海洋生物の生態に与える影響や、海洋生物が食べることで人間の健康にも影響があることを学びました。

講師の方からは、海洋ごみ問題に関する話もありました。海洋ごみは、海に捨てられたものが、海の生物に誤飲されたり、海の生物の生態に影響を与えたりすることが問題であるとのことです。また、海洋ごみは、海の生物だけでなく、人間の健康にも影響があることを学びました。

海と地域の課題を知る

中央中学校1年生は、熊本県小国町ヘイ高原ロッジに行き、地域の問題の解決に挑戦しました。フィールドワークでは、地域の自然の観察や、地域の人々へのインタビューを行いました。

講師のアドバイスを聞きながらフィールドワークにアイデアをメモ

step 2 ワーク

中央中学校1年生は、熊本県小国町ヘイ高原ロッジに行き、地域の問題の解決に挑戦しました。フィールドワークでは、地域の自然の観察や、地域の人々へのインタビューを行いました。

高原の自然を生かした観光業に関する問題を考えるとのことです。ヘイ高原は、阿蘇山の北側に位置する高原です。ヘイ高原の観光業は、夏は涼しく、冬は雪が積もるため、観光客が少ないという問題があります。

生徒の一人は「ヘイ高原の観光業を盛り上げるためにどうしたらいいのかを考えるのは、とても難しかったです。でも、